

学 部 共 通 科 目

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
外国書講読 (Reading of Foreign Books)					
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択必修	2	2, 3, 4	前期	火 3	中 村 美 保 E-mail nakamura@oita-u.ac.jp 内線 7669
授業の概要	本講義では、財務会計に関する英語文献を精読することで、会計学における英語での理解および意見表明(discussion)を行い、理解を深めることを目的とする。また非日本語ネイティブの学生においては日本語での会計学の理解と意見表明を行えるようになることを目指す。				
具体的な到達目標					
目標 1	会計学における英語での理解				
目標 2	会計学における英語での意見表明				
目標 3	Understanding basic financial accounting concepts in English (in Japanese for non-Japanese natives)				
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	オリエンテーション				
2	財務諸表を読むための基本的知識の獲得 1				
3	財務諸表を読むための基本的知識の獲得 2				
4	財務諸表を読むための基本的知識の獲得 3				
5	財務諸表を読むための基本的知識の獲得 4				
6	財務諸表を読むための基本的知識の獲得 5				
7	財務諸表を読むための基本的知識の獲得 6				
8	財務諸表を読むための基本的知識の獲得 7				
9	中間テスト(まとめ)				
10	財務諸表をより深く読む(財務比率分析等) 1				
11	財務諸表をより深く読む(財務比率分析等) 2				
12	財務諸表をより深く読む(財務比率分析等) 3				
13	発展的な会計学に関する文献(学術論文等) 1				
14	発展的な会計学に関する文献(学術論文等) 2				
15	まとめ				
アクティブ ラーニング	毎回のトピックについて、外国語(英語／非母国語)によりディスカッションを行う。財務会計の基礎知識があることは当然、考えること発言することが必要。ただ座って聞いているだけでは単位取得は困難。				その他の 授業の工夫 専門分野の語学学習という意味で、財務会計の基礎知識が習得されていることを前提として、英語／非母国語の両方での言語の使用が受講にあたって求められる。
時間外学 修の内容と 時間の 目安	準備学修	毎回、指定された英語文献の指定部分について、辞書や財務会計のテキストなどをもとに理解し、レジュメを作成すること(5～6時間程度)。			
	事後学修	当該箇所の復習、関連文献の収集および内容の理解(2～3時間程度)。			
教科書	追って指定する。				
参考書	その都度、追って指定する。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)
	毎回の課題の取り組み・発言				30
	期末レポート				20
	試験(中間・期末)				50
注意事項	受講条件：財務会計(簿記ではない)の基礎知識がある学生を対象とする。評価：定期試験(下限3割程度)の他、期末レポートについては、日本語ネイティブは英語にて、non-Japanese nativeについては日本語での作成を求める。また毎回の授業準備として、相当量の課題の準備が必要(5～6時間程度)と思われる。				
備 考	受講にあたっては事前にメール(nakamura@oita-u.ac.jp)にて、問い合わせることを勧める。尚、新型コロナ感染状況により、オンラインでの実施になる可能性がある。				
リ ン ク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教 員 の 実 務 経 験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名	
外国書講読 (Reading of Foreign Books)						
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
選択必修	2	2, 3, 4	後期	金 3	加 納 拡 和 E-mail hkano@oita-u.ac.jp 内線 7709	
授業の概要	本授業のねらいは、英語文献の輪読を通じて、「経営学を英語で学ぶ」ことに慣れることにある。経営学の主要な文献、最先端の研究論文は基本的に英語で公開されている。それら英語文献の全てが日本語に翻訳されているわけではなく、またその翻訳には数年かかることが一般的である。それゆえ、経営学を深く学ぶ上で英語は避けて通ることができない。そこで本授業は、英語文献の輪読を通じて、英語で経営学を学ぶことに慣れることを目指す。					
具体的な到達目標						
目標 1	英語文献を精読し、その概要を自分の言葉で説明できるようになること。					
目標 2	英語文献を批判的に吟味することができるようになること。					
目標 3						
目標 4						
目標 5						
授業の内容						
1	オリエンテーション					
2	前提知識の講義					
3	テキストの輪読					
4	テキストの輪読					
5	テキストの輪読					
6	テキストの輪読					
7	テキストの輪読					
8	テキストの輪読					
9	テキストの輪読					
10	テキストの輪読					
11	テキストの輪読					
12	テキストの輪読					
13	テキストの輪読					
14	テキストの輪読					
15	まとめと振り返り					
アクティブ ラーニング	英語文献の精読とディスカッションを行う。				その他の 授業の工夫	
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	毎回、全員が指定の範囲を予習し、講義時に担当者が作成・配布 するレジュメに基づいて議論を行う。(30h)				
	事後学修	指定範囲の復習を行う。(15h)				
教科書	Ghemawat, P. 2018. Redefining Global Strategy, with a New Preface : Crossing Borders in a World Where Differences Still Matter. Boston : Harvard Business Review Press.					
参考書						
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合 (%)	
	課題の取り組み・発言				100	
注意事項	・ 上記のように成績評価を行うため、所定の出席回数に満たない場合、成績評価を不可とする。 ・ 文献を読むにあたって経済学、経営学の基本的な知識が必要になる。					
備 考						
リ ン ク						
	URL					
担当教員の実務経験の有無	○					
教 員 の 実 務 経 験	I T コンサルタント					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無						
教員以外の指導に関わる実務経験者						
実 務 経 験 を いかした教育内容						

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					旧授業科目名	
ビジネス英語 A (Business English A)					ビジネス英語 A	
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
選択必修	2	1, 2, 3, 4	後期	月 3	Christopher Burkart (経済) E-mail cburkart@oita-u.ac.jp 内線 7951 (Burkart)	
授業の概要	Through this introductory course, students will be introduced to a variety of business related material covering all four skills ; reading, writing, listening and speaking. Student progress will be measured both with a number of TOEIC-style practice sections together with a variety of student-centered output tasks. In addition to introducing and improving presentation skills, students will engage in business communication in a variety of practical contexts. This course is open to IBP students who have a TOEIC level of approximately 350～450, enjoy practical hands-on speaking opportunities, and would benefit from having a fuller understanding of English as it is used in the work environment.					
具体的な到達目標						
目標 1	Develop a basic understanding of business vocabulary and etiquette					
目標 2	Improve presentation skills					
目標 3	Practice a variety of practical communicative skills and situations that are common to the workplace					
目標 4	Practice essential test taking strategies for the TOEIC.					
目標 5						
授業の内容						
1	・ Placement Test					
2	・ Small talk / Introductions					
3	・ TOEIC practice / group communicative activity					
4	・ Guiding a visitor / Making suggestions					
5	・ TOEIC practice / design an orientation seminar					
6	・ Present orientation plans					
7	・ The language of meetings / explaining reasons					
8	・ TOEIC practice					
9	・ The language of meetings / agreeing and disagreeing					
10	・ TOEIC practice / group work					
11	・ Understand voicemail / taking and leaving a message					
12	・ TOEIC practice					
13	・ TOEIC practice					
14	・ TOEIC practice / Group work (plan mini-presentation on non-verbal communication)					
15	・ Presentations (non-verbal communication)					
アクティブ ラーニング	Quizzes, midterm/final test, lectures, homework, internet-based research, discussion (pairs/groups), (LTD), brainstorming, peer response activities, scenario-based (simulation) learning, project-based learning (PBL) presentations				その他の 授業の工夫	multi-media video production and display, presentation (PowerPoint) creation
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	TOEIC study using reference materials, vocabulary, (30h)				
	事後学修	Continuous TOEIC practice (vocabulary building, listening) outside of class, extensive reading. (15h)				
教科書	Students will be notified about the text on the first day.					
参考書	Get that Job (BBC) : http : //www. bbc. co. uk/worldservice/learningenglish/business/getthatjob/ Talking Business (BBC) : http : //www. bbc. co. uk/worldservice/learningenglish/business/talkingbusiness/ ※Students should have the Oxford Business English Dictionary.					
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合 (%)	
	Projects (2)				30	
	Moodle assignments				30	
	Unit test				30	
	Active participation				10	
注意事項	-Students who are absent for more than 5 classes will automatically receive an F -This is a blended course (a portion of the classes will be held online via Zoom) -A laptop computer is required in all classes (online or face-to-face)					
備 考						
リ ン ク						
	URL					
担当教員の実務経験の有無						
教 員 の 実 務 経 験						
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無						
教員以外の指導に関わる実務経験者						
実 務 経 験 を い か し た 教 育 内 容						

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
国際学生フォーラム (International Student Forum)					
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択必修	2	2, 3, 4	前期	月 5	木 村 雄 一 E-mail ykimura@oita-u.ac.jp 内線 7689
授業の概要	ドイツ、パダボーン大学で、夏季休業中(8/18－8/20)に、アジアとヨーロッパの6大学合同で、国際学生フォーラムが開催されます。開催大学から共通論題が提示されるので、参加大学はそれぞれ、共通論題に沿った研究を準備し、報告します。このコースは、フォーラムで報告する研究を行い、報告の準備、練習を行います。また、今回はパダボーン大学の主催でオプションのsummer school(8/22－27) が開催されるので、希望すればフォーラムに引き続いて参加できます。				
具体的な到達目標					
目標1	国外の学生と英語で議論するための基礎力を身につける。				
目標2	経済系のテーマについて、英語で報告することに慣れる。				
目標3	国外の学生と英語で必要最低限のコミュニケーションができる。				
目標4	国外の学生との交流を通じて、多様な価値観を学ぶ。				
目標5					
授業の内容					
1	国際学生フォーラム(ISF)の過去の様子や概要説明				
2	英語でのプレゼンテーション練習				
3	発表テーマの検討・発表グループづくり				
4	英語論文の作成方法				
5	報告用論文の検討 1				
6	報告用論文の検討 2				
7	報告用論文の仕上げ				
8	他校の学生発表に対する質問リストづくり				
9	発表用スライド(パワーポイント)づくり 1				
10	発表用のスライド(パワーポイント)づくり 2				
11	歓送迎会の企画づくり				
12	当日の打ち合わせ・予行練習				
13	(国際学生フォーラム当日) グループ研究報告および質疑応答				
14	(国際学生フォーラム当日) 国外の学生の発表についての議論				
15	(国際学生フォーラム当日) 国外との学生との交流企画				
アクティブラーニング	・英語でプレゼンテーションをする動画サイトを閲覧することで、望ましい報告方法などが理解できる(必要に応じて紹介する)。				その他の授業の工夫
時間外学習の内容と時間の目安	準備学習	論文執筆や発表準備のための時間外活動が必要です。(30h)			
	事後学習	渡航予算が久保奨学金から支出されるため、出資者である久保さんへ、報告書を兼ねたお礼状を提出します。(15h)			
教科書	なし				
参考書	設定した研究内容に応じて、必要な参考文献リストを準備します。グループでの協議や、各自で考えてリストを作成します。				
評価方法・評価割合	評価方法				割合(%)
	平常点(出席・議論への参加・発表準備・フォーラム当日の発表・フォーラム当日の議論)				100
注意事項	主催大学が設定する国際学生フォーラム開催日程(8/18－20)に合わせて予定を調整すること。Summer school(8/22－27)にも参加したい場合はこの日程も調整が必要です。				
備考					
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)						旧授業科目名
国際ボランティア・ワークショップ (International Volunteer Workshop)						国際ボランティア・ワークショップ
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
選択必修	4	3, 4	後期	水 3 水 4	教務委員長・市 原 宏 一・多々良（非常勤講師） E-mail ichi@oita-u.ac.jp 内線 7719(市原)	
授業の概要	この授業は、海外の実社会における体験活動を通じて、自身の専門学習をいかしながら、そこに生活する人々と共に、課題を解決に向けた実践に従事し、これによって、現代社会のグローバルな広がりを実体験するとともに、国際社会の諸問題を実践的に理解することを目的とします。					
具体的な到達目標						
目標 1	専門学習の成果を踏まえて、国際的な交流や体験活動を体験し、社会的課題を発見・認識することができる。					
目標 2	発見・認識した課題の解決に向けて、グループワークを通じて、課題の分析、解決策の検討を進めることができる。					
目標 3	解決案をプレゼンテーションにまとめて、学内外の関係者にわかりやすく提示できる。					
目標 4						
目標 5						
授業の内容						
1	ガイダンス、国際ボランティアについて：大学				16	事前学習成果発表：12月下旬ないし1月初旬 大学
2	ガイダンス、国際ボランティアについて：大学				17	事前学習成果発表：12月下旬ないし1月初旬 大学
3	ガイダンス、国際ボランティアについて：大学				18	フィールドワーク 海外現地でのボランティア：2月上旬（2週間程度）現地
4	ガイダンス、国際ボランティアについて：大学				19	フィールドワーク 海外現地でのボランティア：2月上旬（2週間程度）現地
5	ガイダンス、国際ボランティアについて：大学				20	フィールドワーク 海外現地でのボランティア：2月上旬（2週間程度）現地
6	英会話 派遣先地域に関する準備学習：大学				21	フィールドワーク 海外現地でのボランティア：2月上旬（2週間程度）現地
7	英会話 派遣先地域に関する準備学習：大学				22	フィールドワーク 海外現地でのボランティア：2月上旬（2週間程度）現地
8	英会話 派遣先地域に関する準備学習：大学				23	フィールドワーク 海外現地でのボランティア：2月上旬（2週間程度）現地
9	英会話 派遣先地域に関する準備学習：大学				24	フィールドワーク 海外現地でのボランティア：2月上旬（2週間程度）現地
10	英会話 派遣先地域に関する準備学習：大学				25	フィールドワーク 海外現地でのボランティア：2月上旬（2週間程度）現地
11	グループワーク 国内でのボランティア実践：県内地域（土日2日程度）				26	フィールドワーク 海外現地でのボランティア：2月上旬（2週間程度）現地
12	グループワーク 国内でのボランティア実践：県内地域（土日2日程度）				27	フィールドワーク 海外現地でのボランティア：2月上旬（2週間程度）現地
13	グループワーク 国内でのボランティア実践：県内地域（土日2日程度）				28	フィールドワーク 海外現地でのボランティア：2月上旬（2週間程度）現地
14	グループワーク 国内でのボランティア実践：県内地域（土日2日程度）				29	活動の振り返り・報告会：2月下旬 大学
15	グループワーク 国内でのボランティア実践：県内地域（土日2日程度）				30	活動の振り返り・報告会：2月下旬 大学
アクティブ ラーニング	体験活動として、国内、国外で他者・相互理解と支援を目的としたボランティアに、企画から実施までグループワークに取り組みます。これら体験活動について、授業の最後に公開の成果報告プレゼンテーションを行います。				その他の 授業の工夫	
時間外学 修の内容 と時間 の目安	準備学修	国内・海外での体験活動の事前に学外団体調整や渡航申請等必要な準備を行うとともに、SNSで広報すること。あわせて、派遣先の社会状況について事前学習を行うこと。（30h）				
	事後学修	各回の国内・海外での体験活動後に成果報告を作成し、関係団体への送付・SNSでの公表を行うこと。（15h）				
教科書	教科書は使いません。資料等は必要に応じて配布します。					
参考書	必要に応じて適宜指示します。					
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)	
	国内ボランティア実践				30	
	海外ボランティア実践				30	
	成果報告				40	
注意事項	・履修者は10名程度とします(希望者多数の場合は選考します)。 ・旅費滞在費等の必要経費の一部に久保奨学基金から支援(数万円程度)を受けることができます。 ・日程・活動国・地域の詳細は授業で説明します。 ・11から12月にかけて、土日を使い、地域で準備的なボランティア活動を行います。					
備考	実績：平成27年：ベトナム・ハノイ3名、インドネシア1名、28年：ベトナム・ハノイ4名、29年：ベトナム・ハノイ1名、ホーチミン3名、30年：ベトナム・ホーチミン2名、令和元年：ベトナム・ホーチミン3名、二年：6名国内ボランティアのみ、三年：5名国内ボランティアのみ					
リンク	URL					
担当教員の実務経験の有無	○					
教員の実務経験	フューチャーCプロジェクト代表、国際NGOで3年間、国内NPO等13年の勤務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無						
教員以外の指導に関わる実務経験者						
実務経験を い っ し ゃ の 教 育 内 容	国際NGOでの勤務経験、国内NPO等での勤務経験を踏まえ、また、現在のNPO等との組織的なつながりを活かし、ボランティア実践における課題提起、解決法の提案、体験活動の場の提供や組織化を指導する。					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
I B Pプレゼンテーションセミナー (Presentation Seminar for I B P)					I B Pプレゼンテーションセミナー
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択必修	4	3, 4	後期	月 5 月 6	市 原 宏 一・加 納 拡 和・安 田 俊 介 (非) E-mail ich@oita-u.ac.jp 内線 7719
授業の概要	1年間の協定校での留学による学習成果をもとにして、国際公務員、外国企業勤務、海外ボランティアなど国際社会での活躍を志望する人材アドミッションポリシーとして「国際化、情報化などに対応できる能力」をさらに一層深化させることを目的とします。これにより、国際的に活躍できる企業人・公務員の育成を進めるものです。				
具体的な到達目標					
目標1	留学によって修得したコミュニケーション能力の伸長				
目標2	留学を通じて広めた社会経済文化に関する知見を踏まえ、演習や卒業論文の基礎として整理します。				
目標3	論文作成技法、プレゼンテーション能力の伸長				
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	ガイダンス				
2	テーマ報告会				
3	テーマ報告会				
4	中間報告会 (1)				
5	中間報告会 (1)				
6	中間報告会 (1)				
7	中間報告会 (2)				
8	中間報告会 (2)				
9	中間報告会 (2)				
10	中間報告会 (3)				
11	中間報告会 (3)				
12	中間報告会 (3)				
13	最終報告会				
14	最終報告会				
15	最終報告会				
アクティブラーニング	・ 中間発表、留学に際して、ないしは留学を契機に学修した内容を個々に整理したうえで、複数回にわたり発表し、教室全体で協働学習します。 ・ 最終発表として、公開成果報告として、これら体験活動について、授業の最後にプレゼンテーションを行います。				その他の授業の工夫
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	各回の中間報告に向けて発表原稿・スライドを作成し、作成したスライドファイルを中間報告の事前送付すること。(30h)			
	事後学修	授業に際して指摘を受けた部分について発表原稿・スライドを修正しておくこと。(15h)			
教科書	特になし				
参考書					
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合 (%)
	複数回の中間報告				40
	最終成果報告プレゼンテーション				60
注意事項	I B Pによって交流協定校への留学を行った学生が対象です。I B P教育プログラム修了要件です。				
備 考	I B Pコース1年生は、事前準備として報告会への参加が義務づけられます。				
リ ン ク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教 員 の 実 務 経 験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
フィールドワーク入門 (Introduction to fieldwork)					フィールドワーク入門
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択必修	2	1, 2	後期	集中	山 浦 陽 一 E-mail yamaur@oita-u.ac.jp 内線 7688
授業の概要	現地に宿泊しながら、地域の皆さんとともに農村再生の実践活動に取り組むことを通じて、フィールドワークの手法を学びます。				
具体的な到達目標					
目標1	実践活動の成功を目指しつつ、その過程で現地視察、ヒアリングやワークショップ等のフィールドワークの手法を習得すること				
目標2					
目標3					
目標4					
目標5					
授業の内容					
1	ガイダンス・アイスブレイク				
2	現地視察を通じた山間地の農業の理解				
3	現地視察を通じた山間地の農業の理解				
4	現地視察を通じた山間地の農業の理解				
5	現地視察を通じた山間地の農業の理解				
6	各集落での意向調査・意見交換				
7	各集落での意向調査・意見交換				
8	各集落での意向調査・意見交換				
9	各集落での意向調査・意見交換				
10	各集落での意向調査・意見交換				
11	各集落での意向調査・意見交換				
12	各集落での意向調査・意見交換				
13	提案内容検討				
14	提案内容検討				
15	発表				
アクティブ ラーニング	座学、演習、実習を組み合わせ、学習効果を高めます。特に地域課題の解決に当事者として取り組むことで、机上ではない実践的なフィールドワークの理論、技術を習得することを目指します。				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	農村再生についての事例を調べる。(30h)			
	事後学修	調査内容を整理する。(15h)			
教科書	特に指定しません。				
参考書	特に指定しません。				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)
	活動中の発言内容、プレゼン、活動の姿勢				100
注意事項	本講義は集中講義として2月下旬に行います。また地域や宿泊施設等の都合で人数も限定します(10ー15人程度)。プログラムの詳細は、12月上旬に確定させます。ガイダンスの日程を12月上旬掲示しますので注意してください。				
備 考	合宿形式で、地域の皆さんと農村再生を実践するプログラムです。 短期集中で体も頭も使いながら、農村再生のプレーヤーの一人として活動します。 主役は皆さんです。是非一緒に地域を盛り上げましょう！				
リ ン ク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教 員 の 実 務 経 験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
アドバンストセミナー (Advanced Seminar)					上級演習
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択必修	2	4	前期 後期	未定	教務委員長 E-mail motoya@oita-u.ac.jp 内線 7657
授業 の 概 要	大学院への進学予定者に対しては進学前の事前準備としての教育の場を確保し、進学希望者に対しては、大学院での研究の実際を体験させることで、進学意欲をより深化・具体化させる。大学院講義を大学院生と共に受講することで、修士課程(博士前期課程)での研究方法・スタイルについての理解を深めていく。同時に、大学院講義における受講生としての課題を、大学院生の支援も得ながら果たしていく。また、教員の指導と大学院生の支援を得ながら、大学院を展望した学士課程での学習、卒業論文や専門演習での課題などの学習を深化させる。				
具体的な到達目標					
目標 1	大学院講義を大学院生と共に受講することを通じて修士課程での研究方法・スタイルを説明することができる。				
目標 2	修士課程進学を予定している学部生に大学院での研究の準備を進めることができる。				
目標 3					
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	授業の内容や評価などについての具体的な内容は、大学院のシラバスを参照して下さい。				
アクティブ ラーニング	大学院のシラバスを参照して下さい。				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	大学院のシラバスを参照して下さい。(30h)			
	事後学修	大学院のシラバスを参照して下さい。(15h)			
教科書	第1回の講義時に指示します。				
参考書					
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)
	大学院の講義の評価方法				100
授業における報告や発表、発言内容とレポート等の学修成果のまとめによる総合評価を行う。					
注意事項	1．大学院進学を展望できる学年として3年次後期以上を対象とする。 2．学習成果が実効あるものとなるように、学期当たり2単位までの履修を認める。				
備考	修士課程進学を希望している学生は、大学院の講義と具体的に学ぶ大学院生の姿を見て進学への動機付け深化を図ってください。				
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教 員 の 実 務 経 験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名	
インターンシップ (Internship)					インターンシップ	
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
選択必修	2	3	前期	集中	インターンシップ実施委員会 E-mail ejob@oita-u.ac.jp 内線 7659	
授業の概要	インターンシップでは、企業や地方公共団体等における就業体験を通して、高い職業意識と職業選択に必要な能力を養うとともに、学習意欲の向上を図り、学問研究への問題意識を醸成することを目的としています。この目的を達成するために、事前研修や事後報告会と合わせて専門教育の一環として単位を認定するものです。					
具体的な到達目標						
目標1	就業体験を通して、職業意識や職業選択に必要な能力を養うことができる。 学習意欲の向上を図り、学問研究への問題意識を醸成する。					
目標2						
目標3						
目標4						
目標5						
授業の内容						
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
アクティブ ラーニング	事前研修や事後報告会を実施し、意欲を高めます。				その他の 授業の工夫	
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	事前研修会への参加（7月開催予定）就職支援室による就職ガイダンスの受講(30h)				
	事後学修	事後報告会への参加（10月開催予定）就職支援室による就職ガイダンスの受講(15h)				
教科書	教科書は指定しません。					
参考書						
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)	評価方法の各項目を総合的に判断してインターンシップ実施委員会で判断します。
	実習日報				20	
	就業状況に関する報告書				20	
	企業等による評価表				20	
	事前研修				20	
	事後報告会				20	
注意事項	認定単位数は「5日以上10日未満の実習＝1単位」「10日以上の実習＝2単位」を基準としてインターンシップ実施委員会で判断します。					
備 考	事前研修と事後報告会の日程や内容は「就職の手引」や就職支援室で確認して下さい。履修登録の可否や登録方法など、本科目に関する、より詳しい内容を知りたいときは就職支援室へ問い合わせてください。					
リ ン ク						
	URL					
担当教員の実務経験の有無	○					
教 員 の 実 務 経 験	人事担当者、営業担当者、企画担当者、開発担当者					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無						
教員以外の指導に関わる実務経験者						
実 務 経 験 を いかした教育内容	企業や地方公共団体等でのインターンシップを通じて、就業意識を高めるとともに適切な自己認識や社会人として必要なマナー、責任感を習得する。					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名	
会社研究 (Business Study)					会社研究	
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
選択必修	2	2, 3, 4	前期	水 3	教務委員長 E-mail motoya@oita-u.ac.jp 内線 7657	
授業の概要	企業には様々な事業領域があり、また、行政のサービスも多様です。学生の皆さんには、これが十分に理解されていないことも多いと思われます。このような企業や行政の実際についての知識を得ることは、経済学部学生として他の授業内容についての一層の理解に役立つものと考えます。そして、この授業で得た知識を就職の際に生かして職業選択にも役立ててもらいたいと考えています。					
具体的な到達目標						
目標 1	企業などの実社会の現状と課題を説明することができる					
目標 2						
目標 3						
目標 4						
目標 5						
授業の内容						
1	交通					
2	銀行					
3	旅行					
4	通信					
5	食品					
6	輸入					
7	製造					
8	百貨店					
9	商社					
10	I T					
11	国家公務員					
12	地方公務員					
13	物流					
14	保険					
15	まとめ					
アクティブラーニング	講義終了後には講師への質疑時間をとります。積極的に発言をしてください。				その他の授業の工夫	
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	講義予定の業種、企業については、図書館・ネットを使い事前に概要を調べておくこと(15h)。				
	事後学修	講義内容を基に業界や行政の研究を進める(15h)。				
教科書	各講師が必要に応じて指定します。					
参考書	各講師が必要に応じて指定します。					
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)	講義時のレポート提出回数が開講数の3分の2以下の場合は単位認定は行いません。
	毎回の講義時のレポート				60	
	期末試験				40	
注意事項	現在社会の第一線で働いている先輩等の意見が聞ける良い機会ですので、この際に業界や行政の研究を進め、自信を持って就職試験に臨んでもらいたいと思います。また、原則として、これから就職を控えている3年生を対象とします。なお、各回の内容は講師の都合により変更することがあります。					
備 考	講師は各界の第一線で活躍されている本学部の同窓生の皆様等です。経済学部同窓会「四極会(しはすかい)」寄附講義として、その支援、協力により開講します。企業や行政における具体的な仕事内容、将来の方向、仕事の面白味、その他体験談などのほか、企業など各界で望まれる人物像についてお話しします。					
リ ン ク						
	URL					
担当教員の実務経験の有無						
教 員 の 実 務 経 験						
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無						
教員以外の指導に関わる実務経験者						
実 務 経 験 を いかした教育内容						

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名	
地域と経済 (Local Areas and Their Economics)					地域と経済	
地域創生教育科目						
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
選択必修	2	2, 3, 4	後期	水 3	教務委員長 E-mail motoya@oita-u.ac.jp 内線 7657	
授業の概要	県内外の行政、産業界等において中心的立場を担う、あるいは担ってきた方々が現実の地域経済のなかで、見、聞き、行動して得た「地域と経済」への考え方を理解してもらいます。これらを通じて、現実の地域経済・行政が抱える課題についての理解を深め、学問体系としての地域経済の理論の補強を目指します。					
具体的な到達目標						
目標 1	地域における経済社会の実状と課題を説明することができる					
目標 2						
目標 3						
目標 4						
目標 5						
授業の内容						
1	ガイダンス					
2	食品製造					
3	食品関連					
4	観光レジャー（1）					
5	事務機器					
6	I T					
7	会計					
8	観光レジャー（2）					
9	銀行					
10	金融					
11	公的金融					
12	自動車					
13	製紙					
14	マスコミ					
15	まとめ(授業評価アンケート・評価の方法の通知など)					
アクティブ ラーニング	講義終了後には講師への質疑時間をとります。積極的に発言をしてください。				その他の 授業の工夫	本講義では地域経済に関する幅広い分野の話を聞けるよう社会人講師による講義を行います。講師は地域経済の第一線で活躍されている経営者・リーダーの皆様です。
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	講義予定の業種・企業等については、事前に図書館・ネットを使い概要を調べておくこと(15h)。				
	事後学修	講義内容を基に業界や行政、地域経済についての研究を進める(15h)。				
教科書	テキストは使用しません。					
参考書	各講師が必要に応じて指示します。					
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)	講義におけるレポートの提出回数が開講数の3分の2以下の場合は単位認定は行いません。
	講義におけるレポート				60	
	期末試験				40	
注意事項	講義中に質問時間を取ります。学外から貴重な時間を割いて来られる講師の方々に報いるような、学習意欲の高い受講生を求めます。 原則として2・3年生を対象としています。					
備 考	大分銀行寄附講義として、その支援、協力により開講します。講師が所属する組織の地域経済との関係及びその歴史、大分県の地域経済の変化と課題及びその将来像について、地域経済を支える人材と資源・技術、情報の実態を踏まえたお話を頂きます。 また、地域経済社会で望まれる人物像についてご教示頂きます。					
リ ン ク						
	URL					
担当教員の実務経験の有無						
教 員 の 実 務 経 験						
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無						
教員以外の指導に関わる実務経験者						
実 務 経 験 を いかした教育内容						

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名
資本市場の役割と証券投資 (Role of the Capital Markets and the Securities Investment)					資本市場の役割と証券投資
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員
選択必修	2	3, 4	後期	水 4	教務委員長 E-mail motoya@oita-u.ac.jp 内線 7657
授業の概要	直接金融への期待が高まる現在、資本市場に求められる役割とは何か、激変する日本の資本市場の全容とリスク＆リターンの考え方、株式や債券・投資信託など証券投資に必要な基本的知識をわかりやすく、実務の観点から解説します。				
具体的な到達目標					
目標 1	社会人になってからも実践的に役立つ金融知識の習得				
目標 2					
目標 3					
目標 4					
目標 5					
授業の内容					
1	ガイダンス				
2	経済情報の捉え方				
3	金融市場の役割とその変化				
4	証券投資のリスク・リターン				
5	ポートフォリオ・マネジメント				
6	債券市場の役割と投資の基礎知識				
7	株式市場の役割と投資の基礎知識 1				
8	株式市場の役割と投資の基礎知識 2				
9	投資信託の役割とその仕組み				
10	日本の株式市場の歴史				
11	これからの日本と資本市場の果たす役割				
12	資本市場における投資家心理				
13	資産運用とライフ・プランニング				
14	産業展望と投資の考え方				
15	世界の金融資本市場展望				
アクティブラーニング	チーム単位の投資活動に関するワークショップを行い、グループ報告をしても らいます。				その他の 授業の工夫
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	新聞等で経済情報を集める。(30h)			
	事後学修	授業内容の整理。(15h)			
教科書	資料は毎回、配付予定です。				
参考書	井出正介『株式投資入門』日本経済新聞社、2008年				
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)
	授業回ごとのレポート				60
	期末テスト				40
注意事項	毎回出席をとります。				
備 考	野村証券株式会社寄附講義として、同社の支援、協力により開講します。 講師は、野村証券株式会社をはじめとする野村グループの管理職や専門職です。				
リ ン ク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教 員 の 実 務 経 験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実 務 経 験 を いかした教育内容					

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名	
法律の基礎と実務 (Legal Basis and Practice)					法律の基礎と実務	
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
選択必修	2	1, 2	後期	火 5	教務委員長 E-mail motoya@oita-u.ac.jp	

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名	
働くということと労働組合 (Work and Trade Union)					働くということと労働組合	
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
選択必修	2	1, 2, 3, 4	前期	水 4	教務委員長 E-mail motoya@oita-u.ac.jp 内線 7657	
授業の概要	労働・仕事とは「働くということ」を通じて社会に参加することです。よりよい社会やよりよい仕事環境にしていけるためには企業だけでなく、働いている人自らが労働環境をよりよくする取り組みに参加することが必要です。職場では賃金・労働時間をはじめとする仕事のルールがどのように決まり、それがいかに社会と関係しているのか、労働組合の第一線で活躍されている方にお話ししてもらい、今後の職業選択において多様な視点をもってもらうことを目指しています。					
具体的な到達目標						
目標 1	働く上での具体的な諸問題を理解し、解決に向けて考える姿勢とそのための知識を得ることができる。					
目標 2	労働組合の役割、企業経営の意義を自ら考える能力を得ることができる。					
目標 3						
目標 4						
目標 5						
授業の内容						
1	ガイダンス：働くということと労働組合					
2	課題提起①：労働組合の役割					
3	課題提起②：労働組合と労働行政					
4	課題提起③：労働組合と経営者					
5	ケーススタディ①：「仲間をつくる」「よりよい職場をつくる」ための実践事例の紹介と検討					
6	ケーススタディ②：「仲間をつくる」「よりよい職場をつくる」ための実践事例の紹介と検討					
7	ケーススタディ③：「仲間をつくる」「よりよい職場をつくる」ための実践事例の紹介と検討					
8	ケーススタディ④：「仲間をつくる」「よりよい職場をつくる」ための実践事例の紹介と検討					
9	ケーススタディ⑤：「仲間をつくる」「よりよい職場をつくる」ための実践事例の紹介と検討					
10	ケーススタディ⑥：「仲間をつくる」「よりよい職場をつくる」ための実践事例の紹介と検討					
11	労働組合と政策①：労働組合が目指す政策・制度					
12	労働組合と政策②：若年雇用問題の解決を探索					
13	労働組合と政策③：男女平等参画社会を目指して					
14	労働組合と政策④：非正規労働問題への対応					
15	総括					
アクティブ ラーニング	講義終了後には講師への質疑時間をとります。積極的に発言をしてください。				その他の 授業の工夫	労働行政から大分労働局、経営者の観点から、大分県経営者協会にも労働組合の役割について話して頂きます。
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	事前提示レジュメ・資料の理解(22.5時間：1回1.5時間)。				
	事後学修	レポートの作成および振り返り(22.5時間：1回1.5時間)。				
教科書	特にありません。講義ごとにプリントを配布します。					
参考書	必要に応じて、講義中にお知らせします。					
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)	授業レポートが10回(開講数の3分の2)以下の場合は単位認定を行いません。
	授業レポート 期末テスト				60 40	
注意事項	・労働組合の第一線で活躍している方を講師としてお招きします。講師・受講生ともに快適な環境作りにご協力お願いします。(私語は講師・受講生に対しての迷惑行為ですので、謹んでください)。 ・遅刻はしないでください。遅刻の場合、途中から講義を聴くことはできますが、レポートを提出することはできません。					
備 考	・労働組合・連合(日本労働組合総連合)大分の寄附講義として、その支援、協力により開講します。 ・受講は2年生以上を対象にしていますが、意欲のある1年生も歓迎します。 ・各回の講義終了後には10分程度の質疑時間をとりますので、みなさんの積極的な発言を期待しています。					
リ ン ク						
	URL					
担当教員の実務経験の有無						
教 員 の 実 務 経 験						
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無						
教員以外での指導に関わる実務経験者						
実 務 経 験 を いかした教育内容						

令和4年度(2022年度)シラバス

授業科目名(科目の英文名)					旧授業科目名	
租税の基礎と税理士の役割 (Basis of Tax and Role of Certified Public Tax Accountant)					租税の基礎と税理士の役割	
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担 当 教 員	
選択必修	2	1, 2, 3, 4	後期	木 4	教務委員長 E-mail motoya@oita-u.ac.jp 内線 7657	
授業の概要	本講義は、南九州税理士会の寄付により開講します。本学部や本学経済学研究科出身の税理士を中心とした講師により、わが国の租税制度と税理士の役割について、実務に基づいた内容の講義を進めます。日本の租税制度を理解してもらいつつ、税理士という仕事の役割や今後の課題についての講義を展開します。					
具体的な到達目標						
目標 1	日本の租税の基礎を修得し、その役割を理解することができる。					
目標 2	税務に携わる税理士の役割について理解し、今後の税務における課題を考えることができる。					
目標 3						
目標 4						
目標 5						
授業の内容						
1	オリエンテーション「現代社会における税理士の使命」					
2	租税の歴史と租税のもつ役割					
3	法人税概論					
4	税理士制度と税理士の役割					
5	所得税概論					
6	国税業務について					
7	資産税概論（相続・贈与・資産税）					
8	消費税概論					
9	税理士の仕事Ⅰ（租税の専門家）					
10	税理士の仕事Ⅱ（企業のアドバイザー）					
11	租税争訟制度について					
12	税理士と社会貢献（公益的業務）					
13	中小企業会計基準とは					
14	経営革新と企業再生について					
15	まとめ					
アクティブ ラーニング	講義終了後には講師への質疑時間をとります。積極的に発言をしてください。				その他の 授業の工夫	
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	各回の講義の前に講義対象となる日本の租税制度および租税業務について調べておいてください(15h)。				
	事後学修	講義内容の振り返り(15h)。				
教科書	特にありません。講義ごとにプリントを配布します。					
参考書	必要に応じて、講義中にお知らせします。					
評 方 成 価 法 績 割 及 評 合 び 価 の	評価方法				割合(%)	
	講義におけるレポート				60	提出回数が開講数の3分の2以下の場合 は単位認定は行いません。
	期末試験				40	
注意事項	税務の第一線で活躍されている税理士の方々を講師としてお招きします。 講義に講師・受講生が集中できるよう快適な環境作りを心がけてください(私語は講師、他の受講生に対しての迷惑行為です)。					
備 考	・南九州税理士会の寄附講義として、その支援、協力により開講します。 ・税理士希望の学部生のみならず、日本の税制に関心を持ち、経済社会における租税の基礎と役割を深く学びたいと考える学生の受講をお勧めします。 ・全ての学年の学生の受講ができます。					
リ ン ク						
	URL					
担当教員の実務経験の有無						
教 員 の 実 務 経 験						
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無						
教員以外の指導に関わる実務経験者						
実 務 経 験 を いかした教育内容						